

<p><b>【都市経営研究科提供科目】アントレプレナーシップ論</b> Entrepreneurship</p>	<p>(教員名) 新藤 晴臣</p>	
<p>アントレプレナーシップ研究分野 中核科目</p>	<p>講義科目</p>	<p>選択</p>
	<p>1 単位</p>	<p>2018 年度・後期</p>
<p><b>I 科目の主題</b>          本科目では、アントレプレナーシップについて考えることを目的とする。アントレプレナーシップ (Entrepreneurship) は「起業家活動」と訳され、構成要素として、アントレプレナー、起業機会、経営資源、事業コンセプトが挙げられている。本科目では、個々の構成要素について、先行研究の論点を理解するほか、それらの間のダイナミックな相互作用について、ケーススタディーを通じて学んでいく。また併せて本科目では、アントレプレナーシップの多様性も紹介する。具体的には、起業環境の国際比較のほか、大学発ベンチャー/バイオベンチャーといった技術とアントレプレナーシップとの関係、コーポレートベンチャリングに代表される大企業との関係についても議論を行う。これらの議論を通じて、アントレプレナーシップについて、理解の幅を広げることを目指していく。</p>		
<p><b>II 授業の到達目標</b>          本講義では、アントレプレナーシップの理論と実践への適用方法を理解することを目標とする。</p>		
<p><b>III 授業内容・授業計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 イン트로ダクション</li> <li>第2回 ベンチャー企業とは何か</li> <li>第3回 アントレプレナーとは何か</li> <li>第4回 ケース1：フットサルビジネスの創業</li> <li>第5回 アントレプレナーシップとは何か</li> <li>第6回 アントレプレナーシップの構成要素</li> <li>第7回 ケース2：ソフトウェア会社の事業転換1</li> <li>第8回 ケース3：ソフトウェア会社の事業転換2</li> <li>第9回 大学発ベンチャーと産学連携</li> <li>第10回 バイオベンチャーとは何か</li> <li>第11回 ケース4：大学発ベンチャーの創業と課題1</li> <li>第12回 ケース5：大学発ベンチャーの創業と課題2</li> <li>第13回 中国科学院におけるベンチャー創出</li> <li>第14回 コーポレートベンチャリングとは何か</li> <li>第15回 ディスカッション</li> </ul>		
<p><b>IV 事前・事後の学習内容</b>          授業で示される課題を行うほか、各回のテーマについて、日々の実務の視点から考える、関連書籍を読むなど、理解を深めるよう努力することが望ましい。</p>		
<p><b>V 評価方法</b>          宿題及び課題＝ 70 点、授業内での発言＝ 30 点、合計 100 点により評価を行う。</p>		
<p><b>VI 受講生へのコメント</b>          ケース1～5では資料を事前に読み、解答を作成することが求められる。また授業では積極的な発言が求められる。</p>		
<p><b>VII 教材</b>  <b>【教科書】『アントレプレナーの戦略論』 新藤晴臣[著] 中央経済社 2015 年</b></p>		